医療・保健・福祉

Medical care, Health and Welfare

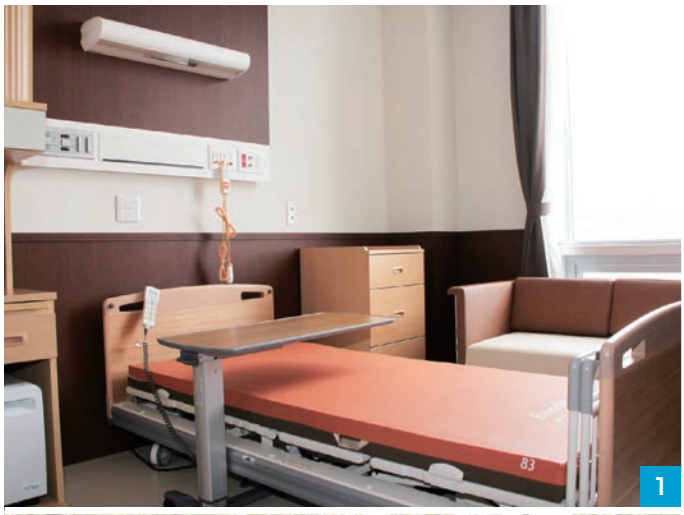
できるときに、できることを、楽しく！

高齢化率が高いのは、知識と経験を積んだ諸先輩が多く暮らしているということ。

この経験を活かしたボランティア活動例があります。他市からも注目される市立病院の院内食堂「ぼらん亭」です。病院経営が窮地に陥ったときに立ち上がった年齢層60代から80代の市民がボランティアで食堂を運営しています。まさに経験をいかしたパワフルな活動です。

大切なのは、支え合い。小さな力の結集が赤平の温かさとなります。住んでて良かったと言えるまちであり続けますように！

赤平市ボランティアセンター　黒坂 順子さん


1

2

3

4

1 あかびら市立病院病棟
2 幼稚園児と高齢者の交流
3 市民スマイルウォーキング
4 水中運動教室

信頼され、選ばれる病院をめざして

2015年4月、市立病院に新病棟がオープンしました。それに合わせて名称を市立赤平総合病院から「あかびら市立病院」に変更して、新たなスタートをきりました。

新病棟は個室を増やし、病室や廊下の広さを改善するとともに、ベッドには離床センサーを配置するなど、快適性と安全性を高めています。

引続き人工透析や訪問看護、各種健診などの充実をはかり、医療サービスの向上に努めています。

これからも地域医療の中核として「市民に愛され、信頼され、選ばれる病院」をめざしていきます。

長く元気に暮らせるまち

赤平市では健康寿命の増進をめざして、各種健康診断や保健指導、健康相談などを充実させています。

北翔大学などとの連携による「地域まるごと元気アッププログラム」では、高齢者が軽体操や昔懐かしい遊びに取組んでいます。いきいきと自立した生活を続けるため、積極的に外出する気持ちを持つ高齢者が増えています。

共通の趣味を持つ仲間同士が集まるサークル活動も盛んです。市民総合文化祭や東公民館まつりなど発表の機会も多く、日ごろから歌や踊りの練習、展示作品の制作に励んでいます。

高齢者本人や家族からは、健康・介護のみならず、生活全般に関する幅広い相談を受付けています。また、電話による定期的な安否確認や緊急通報システムの貸与などで、高齢者世帯を見守っています。

自力での除雪が難しい75歳以上の高齢者や身体障がい者の世帯には除雪費の一部を助成するなど、普段の生活で起こるさまざまな不安に対応しています。

住み慣れたまちで長く健康に暮らしてほしいと願って、あたたかいサポートを続けていきます。